



**ZOOM
UP**

日本全国で活躍する JET-ALT

JET-ALT（外国語指導助手）は、日本全国の小中高等学校の外国語授業において、外国語や出身国の文化学習を通して、児童生徒の外国語への興味・関心を高める指導助手として活躍している。そのほかにも住んでいる地域において、さまざまな活動に積極的に参加する中で草の根の国際交流を進め、地域の国際化に貢献している。本特集ではさまざまな自治体における・活躍の様子について紹介する。

〔(一財) 自治体国際化協会 JET プログラム事業部〕

1 小学校・中学校・高等学校における外国語教育とALTの活用について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 外国語教育推進室

はじめに

平成 29 年、30 年に公示された新しい学習指導要領が、小学校では令和 2 年度から、中学校では令和 3 年度から全面実施された。また、高等学校では、令和 4 年度入学生から年次進行で全面実施される予定となっている。児童生徒の英語力を育むためには、この新しい学習指導要領を踏まえつつ、ALT 等を適切に活用しながら、学校現場で授業が行われることが望ましい。

本稿では、この新しい学習指導要領の目標や各学校種におけるポイントと、同指導要領を踏まえた授業を展開する際の ALT 等の役割について説明することとしたい。

新しい学習指導要領の目標

外国語科の新しい学習指導要領では、その目標として、小・中・高等学校を通じ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ」ること・コミュニケーションを図る資質・能力を「言語活動を通して」育むこととしている。また、資質・能力を育成するための「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」それぞれに関わる目標についても設定しているところである。

この点、同指導要領の解説では、この「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに注目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられるとしているところである。

また、「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、外国語学習の 5 つの領域「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」ごとに、小学校・中学校・高等学校で一貫した英語の目標を設定している。

各学校種における学習指導要領のポイント

小学校

令和 2 年度から全面実施された小学校の学習指導要領では、新たに小学校高学年（5・6 学年）に外国語科（年間 70 単位時間 [週 2 コマ程度]）を新設し、外国語活動（年間 35 時間 [週 1 コマ程度]）を中学年（3・4 学年）で実施することとした。

学習指導要領の解説では、この改訂の趣旨について、

「中学年の外国語活動において、『聞くこと』『話すこと』を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機づけを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を『読むこと』『書くこと』を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する」ものであるとしている。

中学校

令和3年度から全面実施された中学校の学習指導要領では、小学校での学びを踏まえ、外国語学習の5つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしている。

とりわけ、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な活動をより一層重視する観点から、具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実することとしている。

また、今回の学習指導要領から新たに、授業は英語で行うことを基本とすることとした。

高等学校

令和4年度入学生から年次進行により全面実施される高等学校の学習指導要領では、外国語学習の5つの領域を統合的な言語活動を通して総合的に指導するとともに、中学校における学習内容の着実な定着と更なる発信力の強化を図ることとしている。この観点から、新しい学習指導要領では5つの領域別の言語活動および複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、5つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目群として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を、また、発信力の強化を図るため、特にスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、まとまりのある文章を書くことなどを扱う選択科目として、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定するなど、科目の再構成を行った。また、現行の学習指導要領から引き続いて、授業は英語で行うことを基本とすることとしている。

ALTをはじめとした ネイティブ・スピーカー等の存在

実際の授業においては、児童生徒が英語に触れる機会を充実させ、授業を実際のコミュニケーションの場面としていくことが大切であり、中学校・高等学校の学習指導要領では、この観点から、「授業は英語で行うことを

基本とする」とされているところである。

これらを踏まえると、外国語の授業においてALTをはじめとするネイティブ・スピーカー等が参画することの意義は大きいものがある。

この点、文部科学省が実施している英語教育実施状況調査（令和元年度）の調査結果によれば、小学校、中学校、高等学校を通じて、ALT等が幅広い活動に活用されている。具体的には、教師とALT等とのやり取りを児童生徒に示す、児童生徒のやり取りの相手を行うといった授業の補助から、パフォーマンステスト等の補助、児童生徒の発言、英作文等に対するフィードバック、また、外国語の授業外における児童生徒との交流などでの活用が見られるところである。

ALT等の役割については、学習指導要領において、指導計画の作成や授業の実施にあたり、「ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと」とされているところである。児童生徒がALTをはじめとしたネイティブ・スピーカー等とコミュニケーションを図ることは、授業において児童生徒が英語に触れる機会を充実することにつながる。また、そのことは、相手に伝わりやすく話すための知識及び技能、とりわけ音声に関する事項の習得や、英語で自分の考えを述べたり、相手の話を理解したりすること、異文化に対する理解を深めること等の機会を確保することにも資すると考えられる。さらに、日本人教師がALT等とともに英語を用いて授業を行うことは、日本人教師自身の英語力をブラッシュアップすることにもつながると思われる。

おわりに

グローバル化が進展する中、これからの時代において、外国語でコミュニケーションを行う場面は、生涯における様々な場面で必要となることが想定されている。

将来の社会で活躍する子供たち一人一人が生きて働く英語力を身に付けられるよう、教員とALT等が適切な役割分担の下、児童生徒に英語によるコミュニケーションの機会を経験させながら資質・能力を育ていけるような取組が求められている。

はじめに

アメリカの広大なトウモロコシ畑に囲まれた家で育った私にとって、海外で暮らすことは実現できない夢にすぎませんでした。

故郷から遠く離れて外国語で生活している人々に憧れを抱きながらも、具体的に海外に出る手段のない私は、諦めていました。

そんな時、JET プログラムの存在を知り、海外に出る事はただの実現できない夢ではなくなり、将来の目標へと変わっていきました。

JET プログラムの事を知ってから、日本で活躍する事を目指し、できるだけ日本や外国語教育に触れる機会を積極的に作るように努力しました。

日本に関連する協会に入ったり、地元の ESL (第二言語としての英語) の教室をボランティアとして指導したりする事で、私の日本に対しての好意的な気持ちや外国語教育への興味が高まっていきました。

そこから、あっという間に大学を卒業し、生まれ育ったトウモロコシ畑を離れ、初めての仕事と一人暮らしに挑戦する気満々で千葉の田んぼに辿り着き、私の新しい日本での生活が始まりました。

そこから約3年が経過し、学ばなければならない事がまだまだ多くありますが、私が ALT として経験してきた3年間についてお話をさせていただきます。

いわゆる ALT (外国語指導助手) の仕事とは?

学生の頃に教室の隅でニコニコしている ALT の先生を見たという記憶のある人が多くいると思うのですが、ALT の業務内容とは具体的になんでしょう?

英語を教えてくれる先生という単純な答えでも正解に当てはまりますが、ALT の仕事は意外と多面的なのではないかと思います。しかし、ALT の仕事は学校によって業務内容が大きく異なる事があるので、私の個人的な経験を紹介させていただきます。



中学校での授業の様子

私は、主に市内の公立小学校と中学校で英語を教えており、週1回公民館で英会話教室もやっています。

中学校では、日本人の教師に教わった英文法などを実際に使える場を与えるような活動を作成しています。

日本の教育制度はインプットが非常に多く、アウトプットの機会が少ないため、印象に残りやすく楽しい活動を通してアウトプットする機会を多く作ることを目標としています。

流行りのキャラクターや面白いテーマのプリントなどを利用する事で、生徒の記憶に残りやすいような活動を行なっています。

中学生は覚えなければならない事が多くある一方で、忘れてしまう事も多くあります。印象に残るようなレッスンをを行うと、当時対象となった文法などを忘れてしまっても、割と簡単に想起する事ができると私は思います。

小学校での目標は中学校と少し異なります。小学生は、中学生と比較すると若い年齢なため、文法的な説



アメリカの学校の食堂の様子を紹介

明などを暗記して貰うのは、実は逆効果をもたらし、英語を嫌いになるきっかけになってしまう恐れもあります。

言うまでもなく小学生でも出来れば英語を覚えてもらいたいのですが、それよりも英語を好きになってもらい、興味を持ってもらう事が第1の目標となっています。



白里幼稚園にサンタとして登場！！

最近では、小学校に入る前から英語に触れている子供もいれば、小学校で初めて英語と出会う子供もいるので、どのような生い立ちの子でも、授業で英語に触れる中で、英語に慣れてもらい、英語の授業が楽しみだと思ってもらえるような活動を計画しています。

子供達はとても創造的な存在です。私は、英語授業の中で、その創造性を表現できるような活動を取り入れることを重視しています。

友達に見せたいような活動やプリントに取り組んでもらう事で、子供達は無意識に英語を練習し、楽しみながら勉強できるのではないかと思います。

英語教育は小学校教育の中に組み込まれているので、中学校での本格的な勉強が始まる前に、小学校で英語の好感度を上げたり、英語や海外に興味を持ってもらうことを目標に、教材作成と授業実施に取り組んでおります。

私の ALT としての目標

日本の英語教育を自分の活動や考えで補足しながら、日本の子供たちに英語や海外に興味を持ってもらいたいと思っており、言語能力だけではなく、国際的な知識を



祖母が来日し、一緒に地域住民と交流



公民館のクラスとハロウィンパーティー

身に付ける事が重要だと思っています。

私自身も、外国人はおろか、そもそも人口の少ない田舎で育ったので、外国人と関わる機会が殆どなく、メディアの影響を受けた思い込みしかありませんでした。

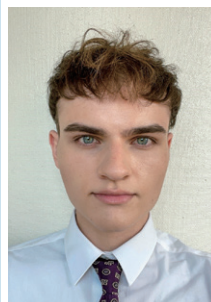
現代の子供達は良くも悪くも、グローバル社会の一員になると思われるので、そのグローバル社会で成功できる手段を早い段階で与えたいと思います。

外国人に出会っても、何も特別な扱いをせず、躊躇わず、相違点ではなく類似点に目を向け、普通に接しても良いと思ってもらえるような環境を作っていきたいと思います。



公民館でのフラダンスのイベント

プロフィール



Quinton Moorhead (クイントン・モアヘッド)

アメリカ合衆国ミシガン州出身。グランドバレー州立大学で国際関係を専攻。

大学卒業後に早速来日し、2018年から千葉県大網白里市で ALT として勤務中。

来年 JET の契約期間が満了となり、帰国せずに日本で就職活動を開始する予定。

はじめに

「したいこと、能美市だったら叶うかも」この言葉は、私が JET プログラムで 5 年間お世話になった、能美市の標語です。以前からこのモットーが好きで、「私は何をしたいのか?」と考えさせられます。

JET プログラムの ALT としての配属先を知ったとき、能美市はおろか、石川県がどこにあるのかさえも知らなかったのですが、新しい場所で生活する機会を得られたことに感謝していました。

来日当初は、日本での生活を楽しむこと以外に何をしたいのか、あまり考えていませんでした。日本語を学ぶ必要があることは分かっていたのですが、それ以外に自分自身が何をすべきであるか、はっきり分かっていませんでした。そんな私に能美市での生活は、自分のやりたいことを気づかせてくれました。

よさこいソーランチームとの出会い

能美での最初の夏はとても忙しかったです。多くの JET プログラム参加者は、母国語ではない言語を使いながらの書類作成や、時差ぼけの状態でさまざまな場所に移動することなどの苦勞は共感できるのではないのでしょうか。赴任初日、上司から「早く日本語で住所を書けるようにならないとね」と冗談を言われたことを覚えています。

しばらくして、ようやく自分の方向性をつかみ始めてきました。それは、「JAPAN TENT」というプログラムを手伝いませんかと声をかけられことがきっかけです。プログラムに参加することで、能美市の国際的な側面に触れることができました。ボランティアの人たちはとても歓迎してくれて、5 年経った今でも続く友人関係を築くことができました。あの夏、日本で生活するうえで、コミュニティを持つことの重要性を痛感しました。



「粟津おすえべ花吹雪」
よさこいソーランのチーム

また、学校の先生方と地元の能美市民の方の助けを得て、「粟津おすえべ花吹雪」というよさこいソーランのチームを見つけ、入ることができました。



能美市国際交流協会の国際交流ひろばイベントで「粟津おすえべ花吹雪」が踊る様子

このチームは、私が日本で憧れていたコミュニティになってくれました。よさこいソーランは非常に楽しい趣味となっただけでなく、チームのメンバーは私にとって家族のような存在になりました。休日には、バーベキューや自宅に招待してくれます。お正月には、一緒に神社へ初詣に行くことも恒例行事となっています。日本語で自分の意見が話せないときは助けてくれたり、思うように表現できないときは理解してくれたりしました。そのような経験を通して、この地域に住むほかの外国人の方々と、この素敵なコミュニティを共有したいと思いました。

2016 年に「粟津おすえべ花吹雪」に入ってから、ほかの JET プログラム参加者やチームメイトの協力を得て、8 か国から約 15 名の外国人メンバーをチームに迎え入れました。その中には、JET 参加者だけではなく、大学院生や一般の社会人も含まれています。そういった取り組みが次第に広がっていき、外国人でも石川県のほかのよさこいソーランチームに参加することもできるようになりました。このようにして、石川県に住んでいる外国人によさこいソーランの魅力を伝え、在住外国人と日本人の地域住民とのコミュニティを構築することができました。

よさこいソーランチームの国際化を通して、在住外国人と日本人の地域住民の間に関係や文化的理解を構築することが私は好きだと気づきました。日本文化を説明するだけでなく、異文化を学ぶことで、両者の架け橋となることができました。そして、この文化的な学びを能美市の生徒たちに還元したいと思いました。

能美の子供達へ伝えたい思い

先生方と協力して、海外だけでなく日本でも起こっている文化的な問題を生徒たちと共有しました。例えば、よさこいソーランチームに外国人メンバーが加入した際には、60人の日本人メンバーはとても歓迎してくれましたが、新しい外国人メンバーとどのように接したらよいか分からず困っていることもありました。私は、このような課題を学びの機会に変え、それを生徒たちと共有する方法を常に考えていました。

そういった中で最も成功した授業には、「Black Lives Matter」や「LGBTQ+」の権利などをテーマにしたものがあります。最も重要なことは、生徒たち自分自身がグローバルコミュニティの一員であることを理解することです。能美市は人口比で見ると、日本人住民に対する外国人住民の比率が石川県で最も高い地域です。そのため、能美市の日本人住民と外国人住民との間でコミュニティを形成することが特に重要になっています。その課題を解決したい思いから、私は能美市国際交流協会（NIEA）でボランティア活動を始め、今年から「外国人コミュニティリーダー」になりました。これは、能美市の外国人コミュニティと日本人コミュニティの間で、コミュニティの発展を促すためのプログラムです。チームの国際化とNIEAでの活動のおかげで、自分のやりたいことに気づくことができました。

私は日本と外国のコミュニティの架け橋になりたいのです。そういった思いもあって、今年の「JET キャリアアップインターンシップ研修プログラム」に応募し、(一財)大阪国際交流センターでインターンをすることができました。国際的な職場で仕事をするのは素晴らしい経験でした。このインターンシップ実習に参加したことで、JET で ALT や石川県のとりまとめ団体アドバイザー (PA) を務めた経験や、能美市に住んでいた経験を活かして、将来は英語でのコ



生徒にブラウンさんの小説を紹介するモリスさん（右奥）と谷口教諭
＝辰口中

「Black Lives Matter」についての
チームティーチングレッスン
(北國新聞)

コミュニケーションを通じて日本の国際化に貢献することができると実感しました。



国際交流イベントで「インタナショナルメンバー」の紹介

これからも日本で

今まで日本で生活することができたのは、能美市をはじめとする地域の方々の応援があったからです。日本に来てから5年が経ちました。来日当時の私は、日本語があまり分からず、人に頼るしかありませんでした。

今の私は、新たな目標を見つけました。それは、昔の私のように、日本に住んでいる国際的な人々、コミュニティを探している人々、日本社会で活躍したいと思っている人々をサポートすることです。

能美市や「粟津おすべ花吹雪」のよさこいソーランのチームが私に気づかせてくれたように、私たちは皆、より大きなグローバルコミュニティの一部であることを、皆さんに気づいてもらうための存在になりたいです。「したいこと」がまだ決まっていない方へ「能美市だったら」、「したいこと」を見つけられ、「叶うかも」!



よさこいソーランのチームメイトと地域の神輿イベント

プロフィール



Sarah Kathryn Morris

(モリス・サラ・キャサリン)

アメリカのバージニア州出身。ロアノーク大学で国際関係を専攻し、大学在学中1年間関西外国語大学に留学。

2016年に大学卒業後、外国語指導助手 (ALT) として能美市教育委員会に着任。

2018年から、石川県のとりまとめ団体アドバイザー (PA) として就任 (ALT と兼任)。現在、ALT の6年目と PA の4年目。

武蔵村山市の紹介

本市は、東京都多摩北部に位置し、雑木林や田んぼなど、身近な場所で自然と触れ合える緑豊かな地域である。

市では里山文化や歴史の中でつむがれてきた伝統が現在も大切に受け継がれており、「村山かてうどん」「村山大島紬」「村山デエグラまつり」などの名産品やお祭りは、多くの人々を魅了している。このような地域における市立小・中学校は全

校がコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを目指している。



毎年10月に行われるデエグラまつり

武蔵村山市の外国語教育

JET-ALTの活用は、1996年から始まり、25年間に53人の外国人青年が本市の外国語教育に携わってきた。

5人のALTが市内5校の中学校を1人1校ずつ担当し、週1日は、市内9校の小学校でも活動している。

2020年度からは新型コロナウイルス感染症の影響もあり、3人で5校の中学校を分担してきたが、それぞれが自分にできることを考え、工夫しながら外国語教育の充実に貢献してきた。

市では、これまでに、ホストタウンのモンゴルへの中学生派遣や、ホノルルの小学校との相互訪問、シアトルの小学校からのホームステイの受け入れ、ワンコインスクールプロジェクトやインターネットを介した外国の学校との相互交流などさまざまな国際交流を進めてきた。

授業については、小・中学校でALTを活用するとともに、小学校に各校1名英語活動支援員を配置し、武蔵村山市小学校英語活動モデルカリキュラムに基づき、小学校第1学年から外国語活動に取り組んでいる。

また、中学校第3学年の希望者には英語検定の受験料を補助し、自分で目標を設定し、挑戦していくことを

応援している。

さまざまな取り組みを通して外国語教育を推進していく中で、ALTが日頃から子供たちに寄り添い、日常生活を共にしているということは、子供たちにとって英語を身近に感じ、自然に英語を話すというきっかけとなるとともに、学校にとって大変頼もしい存在となっている。



授業の様子

ENGLISH CLUB

各中学校の課外活動では、ALTが中心となってイングリッシュクラブを定期的に行っている。内容はさまざままで、ゲーム、映画、料理、季節ごとの異文化理解など、ALTの個性を生かした活動となっている。生徒は熱心に取り組んでおり、ALTと楽しみながらコミュニケーションをとる時間となっている。

ALL ENGLISH 講座

海外派遣経験のある教員とALTが中心となり、市内各中学校から希望者を集めてALL ENGLISH講座を実施している。

他校の生徒と一緒に、話し合うことを中心に普通の授業よりも少しハイレベルな課題に取り組み、達成感を味わうことで、生徒たちが大きな自信をもち、武蔵村山市から世界に飛び立ちたいという大きな夢をもつきっかけになることを目標としている。

本講座は教員にとっても、他校の教員と一緒に指導す

る中で、海外派遣経験のある教員や ALT による先進的な指導方法を学ぶ機会となっており、一人一人の指導力の向上につながっている。

ALT による指導スキルアップ研修

年 2 回、ALT が中心となって教員向けに、授業で活用できるアクティビティやクラスルームイングリッシュなどについて研修を行っている。ALT と連携した授業の在り方、指導計画の立て方、外国語の学び方などについて、教員と ALT がさまざまな意見を交換することで、お互いにさまざまなことに気づくことができ、貴重な研修の場となっている。



ALT による研修

市民向け英会話教室の開催

ALT の活躍は、学校教育だけでなく、社会教育にも広がっており、市民向けに英会話教室を開催し、毎年多くの参加者で賑わっている。参加者の声には、「ALT と楽しく話せてよかった。また参加したい。」「がんばって会話できるようにこれからも勉強したい。この会でとにかく話すことが一番だと思った。」など意欲的な声があり、市民の外国語学習への関心を高めている。



市民向け英会話教室（オンライン開催）

国際交流コーディネーターとの連絡会

日本での慣れない生活をサポートしているのが、教育指導課担当職員と市会計年度任用職員である国際交流コーディネーターである。部屋の入居手続きから、日常の困り事の相談まで、働きやすい環境作りのために支援を行っている。

また、毎週水曜日には、連絡会を実施し、各校での取組状況の共有、指導力向上のための研修などを行っている。



国際交流コーディネーターとの連絡会

子供たちと一緒に活動する中で

ALT の役割はネイティブの発音を教えるためだけではない。休み時間の何気ない会話、給食、部活動など授業以外においても子供たちと一緒に活動することで、子供たちは日頃から英語に親しむことができ、ALT にとっても日本の文化に触れるとてもよい機会となっている。



水田学習での稲刈りの様子

武蔵村山市から世界へ

子供たちが日常の生活の中で彼らと触れ合い、言葉を交わしていく中で、子供たちの国際感覚を養っていきたいと考えている。また、ALT には JET 絆大使として、本市で触れた日本の文化を世界に広げていってほしいと考えている。

大野市が大切にしている教育 ～ALTの現状と学校教育における効果～

大野市は、四方を山々に囲まれ、おいしい水と食に恵まれた、歴史と文化、伝統が息づく城下町である。最近では、盆地を覆う朝霧の中に浮かぶ幻想的な越前大野城が「天空の城」として人気を呼んでいる。大野市では、2013年度にブランド・キャッチコピーとして「結の故郷越前おおの」と定め、人と人とのつながりや助け合いを意味する「結の心」と、積極的に新しい物事に取り組む「進取の気象」の精神を教育にも反映させてきた。また、2021年度からの大野市の最上位計画である第六次大野市総合計画において、「こども」分野をまちづくりの基本目標の一つとし、2021年度からは教育委員会に児童福祉部門を統合して、0歳から18歳までをつなぐ18年教育の充実に努めている。

英語教育に関しても、早期から外国人や外国語に慣れ親しむことが重要であるという考えのもと、2018年度からALTを2名から3名に増員し、全小学校に配置している。授業は担任とALTが連携し、オールイングリッシュを進めることを基本としている。児童は、「ALTのネイティブな英語を理解したい」「もっとやり取りができるようになってALTのことを知りたい」という思いを持ち、積極的に関わろうとする姿が見られる。アルファベットに対する興味関心が高まる時期であり、読んだり書いたりする活動にも意欲的に取り組んでいる児童が多い。

ALTは、授業以外の休み時間や給食、学校行事でも児童と一緒に過ごしている。これは児童のコミュニケーション能力の育成につながるとともに、互いの文化や考え方を知る良い機会でもある。後述する学校以外での活動も含め、国際感覚を身につけた結の故郷の青少年をALTとともに育てていきたいと考えている。

地域の活動：えいごで遊ぼう ～子育て親子と英語で交流～

「えいごで遊ぼう」は2020年度から始まり、子育て

支援拠点施設を利用する乳幼児の親子を対象に、乳幼児期から英語に親しむことを目的に、親子で楽しむ「ふれあい遊び」を実施している。

子育て支援拠点施設は市内に2カ所あり、「ちっく・たっく」は市内のショッピングセンターの中に、「地域子育て支援センター」は市役所に併設の建物の中にある。どちらの施設も親子で遊んだり、イベントを開催したり、子育て相談をしたりと、保護者が乳幼児を連れて気軽に利用できる場所となっている。

2020年度は初年度ということで、各施設で1回の「えいごで遊ぼう」の実施を計画し、企画を練ることとした。ALTならではの異文化交流をと考え、クリスマスを中心に、各施設の職員とALTが事前に打ち合わせを行い、参加者に楽しんでもらえる内容を考えた。

「ちっく・たっく」では、クリスマスカラーの衣装で登場したALTが、アメリカでのクリスマスの過ごし方について紹介し、クリスマスツリーに飾るつえの形をしたカラフルなキャンディーをみんなにプレゼントしていた。その後、一緒にクリスマスカードを作り、アメリカのクリスマス文化を楽しんだ。

「地域子育て支援センター」では、ALTと保育士による「おおきなかぶ」の英語劇を観て、その後、英語での絵本の読み聞かせや、ALTの演奏によるクリスマスソングの合唱などで楽しく交流した。

普段、なかなか異文化交流をする機会がない親子にとって、ALTの英語を聞いて交流できたことは、普段とは一味違ったクリスマスを楽しむことになり、とても好評だった。

2021年度は夏と冬の2回の実施を計画した。夏は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら実施することができなかったが、冬は今年もクリ



ALTと親子のふれあい

スマスを楽しむ企画を考えている。

長期休業中の ALT の活動 ～夏休み子どもチャレンジ教室での交流～

夏休みなどの長期休業中の子どもたちの居場所づくりの一環として、教育総務課が「夏休み子どもチャレンジ教室」を1週間実施し、市内4小学校の1年生から5年生の児童が参加した。学校でのALTは、5・6年生の外国語の授業を中心に活動しているが、チャレンジ教室では「英語であそぼう」というプログラムを担い、低学年の子どもたちでも楽しく過ごせるように、カードなどの道具を使用したり、絵を描いたり、体を動かしたりと、アイデアを凝らして英語で活動する楽しさを伝えていた。

また、教室では「英語であそぼう」のほかにも、地域の伝統文化学習や「ポッチャ」なども体験し、さながらアメリカでのサマーキャンプのようにALTも子どもたちと一緒にさまざまな体験を楽しんだ。

3名のALTのうち2名が任期満了により、「夏休み子どもチャレンジ教室」を最後に本市を離れることになった。子どもたちは、ALTへの感謝の気持ちを込めて、T



福笑い風・誰の描いた顔が、怖い？かわいい？ピカソ!?



退任するALTへ寄せ書きTシャツのプレゼント

シャツに寄せ書きをして贈った。互いが別れを惜しむ姿からも、ALTの存在の大きさを実感することができた。

大野市 ALT 動画 ～臨時休業中も英語を楽しもう～

2020年4月から5月の臨時休業中には、児童に自宅でも英語を楽しんでもらえるよう、ALT3名が小学生向けの英語学習動画を制作しYouTubeで配信した。

動画の企画・構成や撮影、編集はALT自身が行い、テロップやイラストなどを効果的に使い、低学年でも親しめる内容に仕上げた。第1回目は、「英語で自己紹介してみよう」というテーマで、「I like～」という簡単なフレーズを用いて、ゆっくりはっきりと話すことを心掛け、児童が1人でも楽しめるように工夫した。

第2回目として、「can」を使った動画を作成しYouTubeで配信した。何よりも3名のALTが動画の作成を楽しんで行っていて、動画からもその様子が伝わる内容に仕上がった。

新しいALT2名を迎えたこの秋、3名のALTとともに「何ができるか」を考えながら、楽しく広がりのある英語教育を進めていきたいと考えている。



<https://www.youtube.com/watch?v=nWSD1xEnCgE>
【大野市ALT動画】エピソード1 英語で自己紹介してみよう



https://www.youtube.com/watch?v=MIepnVzh_4U
【大野市ALT動画】エピソード2 できるかな?

全中学校区への配置による ALT の活用について ～積極的に外国語（英語）によるコミュニケーションができる子どもの育成を目指して～

宮崎県宮崎市教育委員会 宮崎市教育情報研修センター 主査 大崎 智子

宮崎市内の全 25 中学校区に ALT25 名を配置

宮崎市は、1988 年度より JET プログラムを活用した各学校への ALT の派遣を開始した。さらなる外国語教育の充実を図るため、2017 年度には ALT を 8 名から 10 名に、2018 年度にはさらに 15 名に増員し、ALT 活用の機会を広げてきた。

そして、2019 年度 8 月から、宮崎市内の全 25 中学校区に ALT を 1 名ずつ配置するため、JET プログラムにより招致された ALT を 25 名に増員した。

ALT は、市内の中学校および校区内の小学校にて、外国語（英語）の授業だけではなく、授業以外にも活躍している。これは、本市の第二次宮崎市教育ビジョンにおいて、臆することなく外国語（英語）によるコミュニケーションができる児童生徒の育成を目指すことを掲げており、宮崎市の子どもたちに、「急速な社会のグローバル化に対応できる豊かな国際感覚を持って欲しい」「他国の言語や文化を理解し、外国語（英語）によるコミュニケーションを臆することなく行ってほしい」との想いから実施している。

また、2020 年度の小学校、2021 年度の中学校における新学習指導要領の全面実施にも対応し、より一層の外国語教育の推進および充実を図ることを目指したものとなっている。

中学校区での ALT の活躍

全中学校区に 1 人ずつ ALT を配置したことにより、以前は、ALT1 人あたり小・中学校 5 校以上を担当していたが、2019 年度 8 月以降、ALT1 人あたりの担当する小・中学校は 2～3 校に減少した。

また、中学校区への配置は、小中連携の推進にも役立っており、小学校の学びを中学校に伝えたり、中学校に入学した生徒の不安を軽減させたりしている。

子どもたちは、ネイティブの発音を間近に聞いたり、ALT と実際に会話したりして、ALT から教科書以外の日常的な会話や表現も教えてもらうため、生きた英語に触



授業中の ALT の様子

れる機会が増えている。ALT は、子どもたちに楽しんで英語を学んでもらおうと、授業中にクイズを出したり簡単なゲームをしたりと、楽しく学ぶ工夫をしている。

ALT の発想は日本人と異なることもあり、彼らの発想を生かした楽しいゲームや教材を活用した授業は、子どもたちに喜ばれている。

例えば、子どもたちの好きなキャラクターを用いて道案内の表現を学ぶ活動をしたり、自国のクリスマスの様子、大きなツリーや豪華なディナーなど、子どもたちが興味を持つ映像を用いた教材を作成したりすることで、子どもたちの関心を惹きつけるさまざまな工夫をしている。

また、宮崎市においても、GIGA スクール構想により ICT 機器やインターネットなどのネットワーク環境が整備されたことにより、その環境を生かした外国語活動を



クリスマスの文化を紹介している ALT



オンラインで自国の両親と交流している様子

行っている ALT もいる。

例えば、ある ALT は、教室と両親のいるオーストラリアをオンラインで結び、子どもたちと両親がお互いに自己紹介を行い、会話をする活動を授業で行った。外国語（英語）を使って遠く離れたほかの国、世界の人たちと実際につながる体験は、生きた英語を学ぶことができるだけでなく、子どもたちにとって、世界に視野を広げる貴重な機会となったようである。

また、ALT の多さを生かし、複数名の ALT が連携した授業を行ったりもしている。子どもたちは、色々な ALT と触れ合うことで、新たな刺激をえることができ、自ら英語を話す良い機会となっている。

そのほかにも、ALT は、自国の文化や習慣についても、子どもたちに積極的に紹介している。

例えば、ある ALT は、ハロウィンの時、ハロウィンにちなんだイラストや装飾を用いてハロウィンの紹介ボードを作成し、学校に掲示することで多くの生徒がハロウィンについて知る機会を設けた。

また、ある ALT は、華美になりすぎない程度で、仮装衣装（2020 年はポケモンのキャラクター風、2021 年はジブリ作品のキャラクター風）を身に着け、学校で過ごした。ほかの ALT たちも、放課後にかぼちゃのジャック・オー・ランタンを生徒と作って楽しんだり、授業中にハロウィンにちなんだゲームやクイズを行ったりと、子どもたちに他国の文化を教え、体験させる機会を提供している。

ほかにも、女性プロテニス選手が人種差別への抗議のため、特徴のあるマスクを着けたニュースを授業の題材として取り上げ、自国で今起こっている出来事・問題を知ってもらおうとする ALT もいた。ALT の活動を通し

て、世界のことを学べる良い機会となったようだ。

普段から、休み時間に廊下や教室で、ALT が子どもたちに気軽に話しかける環境があることで、子どもたちが日常の学校生活だけではなく、さまざまな場面で英語を使う機会が増えている。ALT は、子どもたちに自ら元気よく挨拶し、積極的に声をかけており、掃除中にも、うっかり生徒に声かけして注意を受けた ALT もいるほどである。

小学校の昼休みに、元気いっぱいの子もたちとサッカーをしたり鬼ごっこをしたりして楽しむ ALT や、中学校において美術部の部活動に参加して交流を深めている ALT もいる。子どもたちの身近にネイティブがいることで、普段の学校生活において気軽に子どもたちが英語で会話を交わすことができ、子どもたちが臆することなく英語でコミュニケーションを図る機運を高めることができている。

学校以外における ALT の活躍

このように、ALT は小・中学校で活躍してくれているが、学校活動のほかにもさまざまな役割を担っている。

例えば、地域に根ざした外国語教育の実践を行っている。2019 年度に、配置された中学校区の地域を紹介する動画を、中学生と ALT が協力して作成した。

この動画では、中学生たちが自分の住む地域を英語で紹介し、地域の特色ある食べ物が、魅力的に紹介された。中学生たちは、英語を使って、自分の住む地域を他国の人に紹介・発信することができ、改めて地域の良さを知る機会を持てたようである。

2020 年度は、さらに 2 中学校区の地域を紹介した動画が追加された。1 つは、その地域の公園・海岸の良さを紹介し、もう 1 つは、その地域出身の偉人を紹介した動画である。これらの地域紹介の動画は、私たちが気づかない地域の良さや魅力を、実際に動画を見る外国人の視点から映し出しており、世界に向け宮崎市の魅力を発信している。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の小・中学校が臨時休業となった際には、教科書の英語表現を学ぶための動画教材を作成した。ゲームに見立てた構成で、ALT がゲームの登場人物に扮して英語の表現を教えていく動画教材や、カフェでお茶を飲んでいる

場面設定で作成されたもの、衣装や小道具を用いて子どもたちの興味や関心を引くものなど、ALT ならではの発想や斬新な構成が盛り込まれた教材ばかりであった。これらを子どもたちに見てもらえるように、当センターのホームページに掲載した。

(宮崎市教育情報研修センターHP)

<https://www.mcnet.ed.jp/nc/htdocs/>



そのほかにも、宮崎市では、夏季休業中に、小学5・6年生の子どもたちを対象とした「Fun! Fan! English!」というイベントを行っており、ALT が大活躍している。これは子どもたちに楽しんで英語に触れてもらい、英語のファンになってもらうことを目的としており、ALT 自身がテーマや内容を考え、当日の運営も行う。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、2021年度は11月に開催することができた。

2021年のテーマは、「スペース（宇宙）」で、本イベントのために、ALT は、星形にかたどった色紙・惑星に見立て装飾されたバランスボールや小惑星などの装飾品などを、一生懸命作成した。イベント当日は、1グループ3~4名の子どもたちに担当のALT が1名ついて、スペース（宇宙）にちなんで各部屋にてゲームを楽しんだ。各ゲームでは、子どもたちはALT と英語を使ったやり取りを行った。

例えば、天井の惑星に、どれだけ短時間で紙コップ製のスペースシャトルを到達させるかというゲームでは、子どもたちは、スペースシャトルを作るための紙コップをALT にもらうため、一生懸命英語のフレーズを使っ



Fun! Fan! English! でゲームを楽しむ参加児童

ていた。その他にも、方向を学ぶための脱出ゲームといったハラハラドキドキするようなゲームや暗闇の中で色々な惑星をさまよいつながりながら答えていくゲームなど、実にユニークなゲームばかりで子どもたちに好評であった。

最初は知らない者同士でぎこちなかった子どもたちも、グループを担当するALT の積極的なアシストにより、協力してゲームに取り組み、最後にはALT とだけではなく、子どもたち同士の仲も良くなり、英語のファンになっていたようであった。

ALT の今後の活用

2021年9月以降、宮崎市に新しく招致されたALT たちも、子どもたちと積極的に関わろうと奮起してくれている。2021年度から、ALT とのチームティーチングのスキルアップ研修に力を入れ、授業に役立てているところである。ALT 同士でも、情報の共有を積極的に行っていて、ほかのALT が取り組んだ教材が良ければ、それを活用したり、互いに切磋琢磨して、日々の授業改善に向けて頑張っているようである。

今後は、ALT の授業をALT 同士で見学しあう機会を設け、自身の授業改善につなげてほしいと思っている。

もちろん、地域素材を活用した英語を用いた教材も、引き続きALT と生徒で作成し、地域の魅力を英語で発信していく予定である。このように、たくさんの児童生徒がALT と触れ合うことで、臆することなく外国語（英語）でコミュニケーションができるようになってほしい。



PowerPoint を使って児童に自己紹介するALT

※新型コロナウイルス感染症の影響による未来日のALT がいるため、2021年12月現在、ALT 23名の配置となっている。

文部科学省 YouTube チャンネル「mextchannel」で「小学校の外国語教育はこう変わる！」にて宮崎市のALT の授業の様子が紹介された。



7

自治体の国際化に JET プログラムをご活用ください

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部

JETプログラムは主に海外の青年を招致し、地方自治体、教育委員会および全国の小・中学校や高等学校で、国際交流の業務と外国語教育に携わることで、地域レベルでの草の根の国際化を推進することを目的としている。

JET 参加者の職種

外国語指導助手

(ALT : Assistant Language Teacher)

学校教育の外国語授業において外国語や出身国の文化学習を通して、児童生徒の外国への興味・関心を高める指導助手として活躍。



授業を行う ALT (@鹿児島県枕崎市)

国内はもとより、世界各国から大規模な国際人的交流として高く評価されており、このプログラムに係わる日本の各地域の人々と参加者が国際的なネットワークをつくり、国際社会において豊かな成果を实らせることが期待されている。自治体の国際化に是非 JET プログラムを活用してほしい。

スポーツ国際交流員

(SEA : Sports Exchange Advisor)

母国において特定のスポーツ指導で特に優秀と認められている者として推薦されており、スポーツ関係の指導を通しての国際交流活動で活躍。



ホッケーの指導を行う SEA (@大分県立玖珠美山高等学校)

国際交流員

(CIR : Coordinator for International Relations)

高い日本語能力を有しており、任用団体の観光インバウンド戦略や多文化共生に係る取り組みなどのサポーターとして多方面で活躍。



CIR によるラトビアのリストウォーマーワークショップ (@北海道東川町)

① JET プログラムホームページ

<http://jetprogramme.org/ja/>

② 任用を検討中の団体へ

※閲覧パスワードは下記までお問い合わせください
<http://jetprogramme.org/ja/nin-inquest/>



【お問い合わせ】

mail : gyomu@clair.or.jp

(JET プログラムの応募に関すること)

調整課 TEL : 03-5213-1727

(研修・カウンセリングに関すること)

研修・カウンセリング課 TEL : 03-5213-1728